

県外派遣報告書

審判員名	立花正司	所属	中体連
大会名	JX-ENEOS 第30回都道府県対抗 ジュニアバスケットボール大会2017		
期間	平成29年3月27日(月)~30日(木)		
会場	東京体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
3月27日(月)	講習、審判会議	東京体育館	
3月28日(火)	予選リーグ	横浜文化体育館	
3月29日(水)	決勝トーナメント1, 2回戦	東京体育館	
3月30日(木)	準決勝、決勝	東京体育館	
会議 講義 内容			
<p>九州ブロック上級の先生方から、1対1~3対3の動きや見方についての講習をいただいた。最初のオールコート1対1では、良いアングルを保ち続けること。1番エリアからの1対1では、ケースに応じてクロスステップを使って縦になったスペースをより良いアングルで捉える工夫をすること。3番エリアからの1対1では、スローイン前の駆け引きをしっかりと確認してからの位置どりについて、ウィークサイドドライブに対するリードの見方、ストロングサイドドライブに対するトレイルの見方について。3対3では、特にエルボー付近からのプレイなどで選手の位置どりによって2人の協力の仕方が変化してくることなどについてお話がありました。</p>			
実技			
担当試合	期 日	3月28日(火)	男子 予選リーグ
	対戦カード	鳥取県 VS 宮崎県	副審
	相手審判	秋山 知洋氏(山梨県)	
ミーティング内容		主任	佐賀 雄幸氏(宮城県)
<p>全体として選手の力が発揮できるゲームでよかった。丁寧で力強いレポートや立ち居振る舞いは、説得力があり良い。プレイの捉え方と動きに関しても適切に動いてプレイを捉えているので今後も続けること。トップからの縦に割るドライブについて、まず下に受けてからクロスステップをしていたが、プレイヤー同士の力量を見極め、一歩目からクロスステップで早めにプライマリーであるトレイルレフェリーが縦のアングルを捉えても良いので今後の参考にすること。何か起こりそうなプレイにフォーカスを絞って試しているのが伝わるので良いことだが、それは逆に視野を狭めることにもなるので、常にワイドに全体を捉えてより多くの情報を得られると良い。吹けていないものがあるというよりも、吹いたものについてその後の影響を考えて知っておくに留めると良かったものがあつた。今後は、笛の数が減っていくイメージを持ってプレイをどこからどこまでと捉えるのかを意識して長い時間で把握して判定をしていくこと。ゲームの流れやプレイヤーの表情などの情報が多いほど笛の質は高まるので、笛を鳴らすタイミングなどでその笛の質を表現できるようにすること。ワイドに全体をゆったりと捉えるイメージでより多くの情報を収集していくこと。</p>			

全体の感想

今回、ジュニアバスケットボール大会への2度目の派遣を頂きました。日頃からご指導を頂き、派遣をしてくださった埼玉県バスケットボール協会の皆様に感謝申し上げます。試合では、主審の秋山先生に精神的にとっても支えていただき、現段階での自分の力は発揮できたと思います。しかし、県の代表として派遣していただいたにも関わらず、私の実力が無いために、2日目以降の割当がいただけませんでした。これまでたくさんのご指導をいただいたにも関わらず、非常に申し訳なく感じました。ただ、悔しい思いを抱えながらも、2日目、3日目と、同じ気持ちを持った全国の仲間とともに見学をしながら意見を交わし研鑽を積むことができました。「俺たちみんな各県に戻ったら必ず成長して、全国の舞台で決勝を一緒に吹こう」と本気で語り合える仲間ができたことが、今回の派遣で自分が得た何よりの宝物でした。私はプレイを判定しようとするあまり、ゲーム全体の運営に対する情報収集の力が弱いと思います。タイムの管理、ボールコントロールの有無、選手やベンチの心情、時間帯やそれまでの流れなど、バスケットボールのゲームー試合を預かって運営するという意識の元で判定をしていくことが必要だと感じました。今回の経験で見つけた課題をこれから克服していくと共に、今回の派遣で得た仲間との約束を果たすためにも、とにかく力をつけ、少しでも子どもたちや県の力になれるように、今後も一つ一つ一生懸命に活動をしていきたいと思ひます。最後になりましたが、今回の派遣では東京都や神奈川県の皆様は大変お世話になりました。皆様の細やかなお心遣いに感謝を申し上げまして、派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。